

【包括的小児周産期領域専門医養成コース】

Co-ordinator

小児科 須磨崎亮（筑波大学）、森尾友宏（東京医科歯科大学）
小児外科 増本幸二（筑波大学）、岡本健太郎（東京医科歯科大学）
産婦人科 佐藤豊実（筑波大学）、宮坂 尚幸（東京医科歯科大学）

開講期間：3年間

1. コースの概要

後期研修医（産婦人科、小児科、小児外科）を対象として以下を育成する。

- 生殖医療・周産期医療に関する基礎的な知識・技能を有する産婦人科医
- 集学的治療が必要なハイリスク新生児を診断・治療できる新生児科医
- 小児・新生児外科疾患における手術に対応できる小児外科医
- 小児在宅医療等、新しい地域医療のマネジメント能力が高い臨床医

本教育プログラム・コースで定める必修科目および選択科目について、合計 120 時間以上を研修会出席、e ラーニング、ビデオカンファレンスシステム等を用いて履修し、レポートを提出すること。さらに研修成果、研究成績、症例検討などをビデオカンファレンスにて年 1 回発表することを通じて、知識・経験・指導技術を確実に身に付け、応用力を涵養する。

筑波大学大学院人間総合科学研究科、筑波大学附属病院、東京医科歯科大学医歯学総合研究科、東京医科歯科大学医学部附属病院およびその他の協力病院等によって機会を相互提供・共有し、効率的に研修する。

2. 到達目標

コース修了までに、小児科専門医（日本小児科学会）、日本小児外科学会専門医、産婦人科専門医（日本産科婦人科学会）の各試験を受けることが可能なレベルまで到達することを目標とする。

3. リソースパーソン

筑波大学

小児科

須磨崎 亮（総合診療、小児肝・消化器疾患、感染免疫疾患、自己免疫病）

田川 学（小児肝・消化器疾患）

宮本 信也（発達障害、心身症）

大戸 達之（小児神経・筋疾患）

田中 竜太（小児神経・筋疾患）

榎園 崇（小児神経・筋疾患）

嶋田 知博（小児内分泌代謝疾患、小児腎疾患、総合診療）

岩淵 敦（小児代謝・内分泌疾患、総合診療）

堀米 仁志（小児循環器疾患）

高橋 実穂（小児循環器疾患、総合診療）

加藤 愛章 (小児循環器疾患)
竹田 一則 (小児アレルギー性疾患、障害科学)
宮園 弥生 (新生児医学)
齋藤 誠 (新生児医学)
金井 雄 (新生児疾患)
日高 大介 (新生児疾患)
梶川 大悟 (新生児疾患)
福島 敬 (小児がん、小児血液疾患、国際交流、総合診療)
小林 千恵 (小児血液疾患・腫瘍)
福島 紘子 (小児がん、血液疾患、遺伝医学)
鈴木 涼子 (小児血液疾患・腫瘍)
八牧 愉二 (小児血液疾患・腫瘍、小児代謝・内分泌疾患)
中尾 朋平 (小児がん・小児陽子線治療)
榎本 有希 (救急医学・集中治療医学・総合診療)
今川 和生 (総合診療、遺伝子診療)

小児外科

増本 幸二 (小児外科全般、新生児外科、外科代謝栄養、小児泌尿器)
田中 秀明 (小児外科全般、移植外科)
高安 肇 (小児外科全般、新生児外科、小児腫瘍)
新開 統子 (小児外科全般)
瓜田 泰久 (小児外科全般、新生児外科、小児泌尿器科)
五藤 周 (小児外科全般、内視鏡外科、新生児外科)
川上 肇 (小児外科全般、小児泌尿器科)
池袋 賢一 (小児気管外科)

産婦人科

佐藤 豊実(婦人科、腫瘍外科)
沖 明典 (婦人科、腫瘍外科)
水口 剛雄 (婦人科、腫瘍外科)
越智 寛幸 (婦人科、腫瘍外科、内視鏡手術)
中尾 砂理 (婦人科、腫瘍外科)
志鎌 あゆみ (婦人科、腫瘍外科)
櫻井 学 (婦人科、腫瘍外科)
秋山 梓 (婦人科、腫瘍外科)
田坂 暢崇 (婦人科、腫瘍外科)
濱田 洋実 (産科、出生前診断、胎児治療、臨床遺伝、生殖発生毒性))
小島 真奈 (産科、周産期感染症、合併症妊娠)
八木 洋也 (産科、胎児治療、内視鏡手術)
大原 玲奈 (産科、腫瘍病理)
永井 優子 (産科、女性心身医学)
川崎 彰子 (不妊症、生殖内分泌)

東京医科歯科大学

小児科

森尾友宏（小児血液・腫瘍・免疫・再生医療）
土井庄三郎（小児循環器）
金兼弘和（免疫不全、血液・悪性腫瘍、感染症）
今井耕輔（免疫・血液・腫瘍）
高木正稔（免疫・血液・腫瘍）
鹿島田健一（内分泌）
滝敦子（新生児）
田中絵里子（腎臓）
馬場信平（神経）

小児外科

岡本健太郎（小児先天異常・低侵襲手術）

産婦人科

宮坂尚幸（周産期）
尾林聡（女性ヘルスケア）
吉木尚之（低侵襲手術）
石川智則（生殖内分泌）
若菜公雄（婦人科腫瘍）
江川真希子（周産期、臨床遺伝、出生前診断）
横田真由美（周産期、合併症妊娠）

4. 学習の進め方

以下の3段階を通じて知識・経験・手技を定着する。

- (1) レクチャー受講による知識習得
- (2) 診療を通じた on the job training
- (3) 初期研修医等を対象の診療指導およびレクチャー・医学生の臨床実習指導

5. 教科書または参考書（下記から適宜選択）

Avery's Diseases of the Newborn 9th ed (Saunders)

Fanaroff and Martin's Neonatal-Perinatal Medicine～Disease of the Fetus and Infant～
10th ed. (Saunders)

Operative General Surgery in Neonates and Infants (Springer)

Smith's Recognizable Patterns of Human Malformation, 7th ed. (Saunders)」

Williams Obstetrics 24th ed (McGraw-Hill Professional Publishing)

日本版救急蘇生ガイドライン 2015に基づく新生児蘇生法テキスト第3版(メジカルビュー社)

日本版救急蘇生ガイドライン 2015に基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル第4
版, (メジカルビュー社)

産科診療ガイドライン産科編 2017 (日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会) 2017 年刊
行予定

産婦人科必修母体急変時の初期対応ーチームワークと連携強化でいのちをまもる (メディカ出版)

新生児栄養学～発達生理から臨床まで～ (メジカルビュー社)

小児内科 2012 年増刊号 小児疾患の診断治療基準 4 版 (東京医学社)

小児心電図ハンドブック (中外医学社)

小児超音波診断のすべて (メジカルビュー社)

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012 (協和企画)

食物アレルギー診療ガイドライン (協和企画)

最新感染症ガイド R-book～<2012> (日本小児医事出版社)

てんかん治療ガイドライン<2010> (医学書院)

クローン病診療ガイドライン (南江堂)

溶血性尿毒症症候群の診断・治療ガイドライン (東京医学社)

小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン (診断と治療社)

二分脊椎(症)の手引き 出生から自立まで (日本二分脊椎症協会)

シリーズ生命倫理学 第 7 巻 周産期・新生児・小児医療 (丸善出版)

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン (金原出版)

遺伝医学やさしい系統講義 18 講 (メディカル 1・サイエンス・インターナショナル)

周産期遺伝カウンセリングマニュアル (中外医学社)

系統小児外科学 改訂第 3 版 (永井書店)

外傷初期診療ガイドライン JATEC 改訂第 4 版 (へるす出版)

低出生体重児の外科～極・超低出生体重児外科の治療成績向上を目指して～ (永井書店)

改訂 2 版 医療従事者と家族のための小児在宅医療支援マニュアル ()

母乳育児支援講座 (南山堂)

薬物治療コンサルテーション 妊娠と授乳 改訂第 2 版 (南山堂)

トンプソン&トンプソン遺伝医学 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

PALS プロバイダーマニュアル (シナジー)

医学研究のデザイン第 4 版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

など

6. 評価

進捗状況の評価は専門医 (小児科、産婦人科、外科) の各試験の受験資格を得るために必要な研修内容の達成度、指導医による観察記録およびレポートにより行う。最終目標は専門医取得 (小児科、産婦人科、外科) とする。

7. 講義項目と時間割

	科目名	時間数	内容	
必修科目	研究倫理	6	目的	臨床研究に必要な倫理学を学ぶ
			内容	『ヘルシンキ宣言』および厚生労働省および文部科学省による『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の内容を理解する。研究計画の立案・倫理審査受審の機会があれば積極的に参画する。
			進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な倫理講習、または日常診療や倫理審査申請書作成等を通じた on the job training をもってふりかえることができる。
	ゲノム医学・分子医科学	10	目的	専門診療に必要な基本的ゲノム医学・分子医科学について学ぶ。
			内容	臨床遺伝学を理解するための基礎となる基礎医学的解析法、評価法について理解を深める。
			進め方	大学院等の講義・セミナー受講、および実臨床での OJT 、カンファレンス参加による演習を行う。
	医学統計	10	目的	専門診療に必要な基本的臨床統計を学ぶ。
			内容	講義・セミナー受講、または統計によるデータ解析を使用した医学論文の読解を通じて、統計データの客観的・批判的解釈方法を学ぶ。実際の臨床データを用いた基本的統計解析方法の simulation training , on the job training を通じて、技能を修得する。
			進め方	大学院等の講義・セミナー受講、抄読会等における医学論文の紹介・討論、または臨床統計等の生データを用いた統計解析を経験することを通じて、知識を修得し技能を定着させる。
疫学・公衆衛生学	8	目的	専門診療に必要な基本的疫学・公衆衛生学を学ぶ。	
		内容	講義・セミナー受講、または疫学・公衆衛生に関する医学論文の読解を通じて、客観的・批判的解釈方法を学ぶ。	
		進め方	大学院等の講義・セミナー受講、抄読会等における医学論文の紹介・討論、または疫学・公衆衛生学等の生データを用いた統計	

				解析の経験等を通じて、知識を修得し技能を定着させる。
	科学・医学英語	6	目的	英語の科学論文を読解し、執筆する。
			内容	講義・セミナーへの参加、または医学英語の読解・作文・会話の機会を活用する。
			進め方	英文教科書の輪読会、英語医学論文の抄読会等への参加、または英語論文(学会抄録、学会発表を含む)を執筆する機会を活用し、英語の実践力を高める。
	医学論文作成の手引き	4	目的	医学論文を執筆する。
			内容	邦文または英文による論文(学会抄録を含む)を執筆する経験を積む。投稿作業および査読コメントへの対応を経験する。
			進め方	筆頭著者として査読のある専門誌にオリジナル論文を投稿し、査読コメントに対応する機会があることが望ましい。
	臨床遺伝学	10	目的	専門診療に必要な基本的遺伝学を学ぶ。
			内容	種々の遺伝様式を理解し、診療において実用的な診断技術として使いこなすための基本的知識を得る。または個別事例の遺伝カウンセリングに必要な情報を理解し、収集/整理する。
			進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
	キャリアデザイン特講	6	目的	自らのキャリアアッププランを立案することを目的とする。
			内容	社会の動向を踏まえて、自らが効率的に社会貢献するために修得すべき知識・技能を理解する。
			進め方	講義・セミナーの受講、または指導医との個別相談において、自らのキャリアアッププランを立てることをもって充てる。
選択科目	生殖医学	10	目的	専門診療に必要な基本的生殖医学を学ぶ。
			内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
			進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
	母体生理学	10	目的	専門診療に必要な基本的母体生理学を学

			ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
産科救急医学	10	目的	専門診療に必要な基本的産科救急医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
周産期精神医学	10	目的	専門診療に必要な基本的周産期精神医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
胎児医学	10	目的	専門診療に必要な基本的胎児医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
母子保健学	10	目的	専門診療に必要な基本的母子保健学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
新生児医学	10	目的	専門診療に必要な基本的新生児医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。

		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
新生児・小児救急医学	10	目的	専門診療に必要な基本的新生児・小児救急医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
小児循環器医学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児循環器医学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
小児発達学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児発達学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
児童心理学	10	目的	専門診療に必要な基本的児童心理学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
小児腎臓病学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児腎臓病学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講

				習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
小児内分泌・代謝医学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児内分泌・代謝医学を学ぶ。	
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。	
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。	
小児神経医学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児神経医学を学ぶ。	
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。	
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。	
小児感染症医学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児感染症医学を学ぶ。	
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。	
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。	
小児腫瘍学	10	目的	専門診療に必要な基本的小児腫瘍学を学ぶ。	
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。	
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。	
新生児・小児外科学	30	目的	専門診療に必要な基本的新生児・小児外科学を学ぶ。	
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。	
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。	

地域医療学	10	目的	専門診療に必要な基本的地域医療学を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。
在宅医療特論	10	目的	専門診療に必要な基本的在宅医療を学ぶ。
		内容	標準的および先進的な知識を修得し、診療に応用するための技能を身につける。
		進め方	講義・セミナーの受講、または各施設で指定または各学会の専門医受験に必要な講習に参加する。日常診療を通じた on the job training をもって振替え可能。

上記の講義と関連する内容の各学会指定講習・セミナー、または所属施設指定の講習・セミナーへの参加をもって、振替えることが可能である。振替可否は、口頭試問等によって指導医が判断する。

8. 演習・OJT

講義内容と関連した演習（simulation training）および診療を通じた **on the job training**（OJT）を実施する。予定を組むことは難しいため、内容が重複する演習・OJTの機会を得た場合には、講義に振替えることを可能とする。振替え可否については、演習・OJTを担当した指導医が判断する。

9. コース履修条件

初期研修修了者を対象とする。本後期研修プログラムの履修を希望する者は、面接等による評価を行う。